

お茶のみ会で被災者元気

伊達市の専門家チーム派遣

お茶のみ会で話し合う参加者。心身の専門家による地域支援が進められている＝伊達市霊山町



「本音のおしゃべり」で心身を元気に。伊達市は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後、被災者の心身のケアや地域コミュニティ再生のため、集会所などに臨床心理士や保健師など専門家のチームを派遣する「元気アップ復興隊」事業として「お茶のみ会」を開いている。市によるとチーム派遣は県内でも珍しく、その成果が注目されている。

本音のおしゃべり「絆復活」

同隊の運営は、市がNPO法人ハートフルハート未来を育む会(郡山市)に委託している。同隊は臨床心理士や、伊達市の保健師らで構成。お茶のみ会のほか、母子事業、避難者支援事業に取り組んでいる。

旧特定避難勧奨地点がある同市霊山町上小国中島地区。集会所「中島会館」で4月に開かれた「お茶のみ会」で、同法人理事長で臨床心理士の成井香苗さん(63)が集まった住民15人に語り掛けた。「楽しい会にしましょう」

同地区は賠償などの問題で地域がいつとき、分断された。今も若い世代を中心に自主避難している人が多い。会では健康チェックやストレス解消の要点紹介、本音のおしゃべり、「笑いヨガ」などが行われた。お茶のみ会は、旧特定避

難勧奨地点がある地区を中心に、市内各地で2014(平成26)年度から開かれている。保健師が体を見て、心理士が心を聞き、運動指導士が体の免疫力をアップさせる。専門家がチームをつくり、被災者をサポートするのが特徴だ。

中島地区での開催は7度目で、「車座トーク」では「作った野菜を子どもが持つていくようになった」孫が家に来て外で遊んでくれた」などの明るい話に、参加者が共感したように深くうなずいた。

参加した70代男性は「お金でぎくしゃくしたこともあったが、話し合うことでわだかまりはなくなった」と話す。昨年には盆踊り大会が開かれるなど、地域の行事も増えてきた。別の60代男性は「笑いヨガは気分転換になる。話し合いは隣

近所の顔が見えていい」と会の「効果」を語る。

成井さんは「(中島地区では)最初は皆さんの表情が硬かったが、徐々に雰囲気柔らかく明るくなり、地域の絆が復活してきた」とみる。お茶のみ会の後、復興隊が戸別訪問することもあり、地域の包括的な支援につなげている。

お茶のみ会の参加者数が増えていることから、市は本年度、開催地区を増やす考え。本年度末で自主避難の住宅無償提供が打ち切られ、家族の生活環境が変わることも予想されることから、来年1～3月ごろに重点的にお茶のみ会を開き、住民の心理面を支える。成井さんは「住宅無償提供が一つの区切りになるとみられている。危機を乗り越えるために、今後も継続支援が必要だ」と話している。

詐欺事件で手
邦人をタイで
医療費

【バンコク共同
】バンコク共同
察は1日、医療費
装った詐欺事件で
など12都県警の合
部が国際手配して
脩平容疑者34を
ンコクで拘束した
た。近く日本に移
続きを取る。

兵庫県警の捜査
よると、吉沢容疑
グループの主犯

風呂

